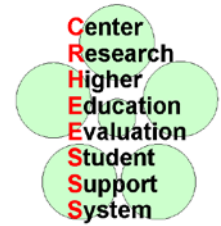


週刊センターニュース No.301



第301号(2010年3月23日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: <http://www.rche-kanazawa-u.jp/>

〇〇〇 第261回共同学習会のご案内 〇〇〇

日時: 3月24日(水) 午前10:30-12:00

※開催曜日・時間が通常と異なりますのでご注意ください。

会場: 角間キャンパス総合教育1号館2階 大会議室

テーマ: 角間キャンパス運動施設に関する問題点の把握と対策について(屋内施設)

企画者: 北浦 孝(保健管理センタースポーツ教育部門准教授)

報告者: 北浦 孝(保健管理センタースポーツ教育部門准教授)

概要: 最近角間キャンパスの運動施設のあり方について問い合わせの機会が多くある。これを機会にいろいろな問題点を明確にし、今後の活用方法について意見を集約し、問題解決の糸口にしてみたいと思う。

角間への総合移転後徐々に老朽化が進み更新を必要とする施設がある一方、未だ移転計画の中にあつて進行していない野球場のような施設もある。大学の運動施設は授業用・課外活動用・一般福利厚生用(学生教職員)・社会貢献用等多彩な活用が行われている。しかし、その運営は使用者自身に任されている部分が多く故障等によるケガの発生や盗難など多くの問題点がある。今回は屋内施設の体育館についての問題点について参加者とともに解決策も含めて議論を行う。

〇〇〇 離任にあたって 〇〇〇

昨年四月に着任してよりはや一年。短い期間でしたが、金沢大学におけるFD活動・ICT教育推進の支援を行うべく微力ながら活動してきたつもりです。もちろん、私自身「FD=フロッピーディスク?」の世界からやってきたため、十分な貢献をなしたかはなはだ疑問でもあり、また、一年間を振り返るならば、まだやるべきことは多々あったと思う部分もあります。

FD活動は、こと「労力と時間のかかる」面倒なものと思われる面があります。金沢大学において「FD活動」と「ICT推進」活動が両輪として位置づけられたのは、FD活動におけるそうした負担を軽減しつつ効果を最大限あげるための、大きな意義のある戦略だと思っています。すなわち、授業にICTを積極的に活用していくことが、イコール授業内容の公開や、学生への提供情報の増大、教員間での教材の共有化につながり、それがそのままFD活動の成果となるという戦略です。その戦略の線上において、「アカンサスポータル」という、全学の教職員・学生が利用できる学習支援環境の整備が位置づけられ構築されてきたと考えています。金沢大学のような規模の大学で、全学規模で同一のICT環境が利用できる大学は、全国を見渡しても類例をみません。こうした全学共通のICT環境を土台に、ICT教育の促進によってFD活動をも推進していくというコンセプトは、FD活動の一つのあり方を示すものとして誇るべきものと思っています。

もちろん、こうしたFD活動が実を結ぶためには、教職員・学生における「アカンサスポータル」の利用率をあげることが必要となります。FD・ICT教育推進室に配置された特任助教である私・竹本

と、同特任助教・末本は、そうした利用促進活動をメインのミッションと認識して活動してきました。

私自身は、「文系出自の機械オタク」として、「文系」においてどのように ICT 教育の促進・支援を行っていくかを出発点として活動を行ってきました。もちろん「文系」に限ったことではありませんが、文系には機械に対する抵抗感を持つ教員も多く、そうした教員においてどのように ICT の利用を進めていくかは大きな問題としてあります。そのため、アカンサスポータル利用のための講習会を行い、また、「ポータル通信」といった定期刊行誌を通して、できるだけわかりやすく利用法を伝える活動を行ってきました。また、全学で利用される e-Learning 教材の作成や、各種講演等の撮影及び動画配信などにより、全学での授業支援や FD 活動に少しでも貢献できるよう努力してきました。

教育支援のための情報環境は、「利用できて当然」というまで浸透させてこそ存在の意義があります。こうしたシステムがない大学に行ったときに「無くて不便」と思うようになってこそ価値のあるものになると考えます。こうした中で、体制の変更により、FD・ICT 教育推進室の教員支援にあたる人員が来年度縮小されることは残念でなりません。私自身の活動がもっと幅広いものになっていけば、という思いもあります。

来年度、私は北海道大学高等教育機構 科学技術コミュニケーション研究教育部（略称 CoSTEP）に赴任します。そこにおける活動は、研究者の研究活動の市民との間をつないでいくものとなります。そのための手段として、どのように映像表現・情報機器を活用していくかという問題は、金沢大学における活動と共通するものになると思っています。この活動は、研究者のアウトリーチ活動をいかに進めるかという意味で、FD 活動とも無縁ではありません。そうした立場から、今後も金沢大学の FD・ICT 教育推進室の活動に何らかの寄与をしていくことができればと考えています。

（文責 FD・ICT 教育推進室 竹本 寛秋）

○●○ アカンサスポータルに FD・SD カレンダー掲載中 ○●○

当センターでは、学内の共同学習会や FD・SD 研修会などの開催情報の他に、学外で開催されている大学教育に関連する学会やシンポジウム、全国の大学で実施している FD・SD に関する（公開）セミナー等についても情報収集を行っております。関連する情報提供をいただけると幸いです。いただいた情報は、学内ポータル内の「FD カレンダー」（学内開催、学外開催、センター教員担当の 3 種類。2010 年 6 月分まで参照可能。随時更新）および「SD カレンダー」（学内開催、学外開催の 2 種類。2010 年 6 月分まで参照可能）に掲載させていただきますので、当センター宛（info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jp）まで、ご連絡頂きますよう宜しくお願いします。

各カレンダーは、ポータルでログイン後、時間割の下にある「その他情報」・[時間割] をクリックして表れる見出しの 2 つめの項目に【FD・SD】があり、そのうち「アカンサス FD」「アカンサス SD」の中にそれぞれカレンダーを所収しています。是非ご活用下さい。

○●○ 追記情報 ○●○

第 300 号（2010 年 3 月 8 日付）の紙面について、記事「自己調整学習と e-learning」の執筆者（文責）の記載がありませんでしたが、教育支援システム研究部門 山田政寛 です。追記と併せ、お詫びいたします。